

学道一如

発行
小樽双葉高校
生徒会通信
2025年10月23日
第36号

北海道高等学校女子バレーボールリーグ シーズンⅡ最終節 8校中2位に躍進、選手権への自信に

道内の私学8校が競う右記バレーボールリーグのシーズン最終戦で
本校は2位に順位を上げ、近づく選手権への自信を得ることができた。



8校の選手たち



各校の3年生が記念写真



優秀選手に選ばれた長田倅奈さん

このリーグに参加しているのは北海道栄、東海大学附属、白樺学園、北海、とわの森、旭川龍谷、稚内大谷と本校の私学8校である。

10月18日、19日に北洋大学で開催されたシーズンⅡ最終節（3回目）。本校のこれまでの順位は4位だったが、今回はとわの森、北海を倒し、決勝で北海道栄と対戦し、2位に躍進した。

3年生の丸山璃恋さんは「選手権を11月4日に控え、細かなところを確認できた」と話す。「みんなで一致団結し、考え合いながら、上を目指したい」と初戦の旭川明成戦に備える。

水産資源確保のために



渡部貴聴 氏

全道新聞研究大会 記念講演 オホーツク・網走の漁業を深掘り 山・川・海の深い関係

10月8日から全道新聞研究大会が網走市で開催された。記念講演には網走市農林水産部水産漁業課の課長、渡部貴聴氏が「オホーツク・網走 あなたの知らない？ 山・川・海の深い関係」と題して、地域の漁業の現状と課題、環境保全についてお話された。

森は海の恋人

川は雨水を海に運ぶ。地形を変え、人と産業を支え、水資源を供給し、環境を支える。命の循環と再生産の場（サケの生息地）、水を浄化し、海に栄養を供給し、海の栄養が山に供給される（サケのホッチャレを食べる生き物を支える）。

山は雨水を蓄えて濾過し、洪水を防ぎ、表面浸食を防ぎ、食物連鎖により生物の多様性を維持する。

「森は海の恋人」（畠山重篤氏が提唱）と言われるように、森が海の水質を保ち、豊かな漁場を育む。

網走ではこれまでに大雨によりシラウオが流されたり、シジミの生息場がなくなる、ホタテ稚貝が大量に死ぬなどの困難に直面してきたという。その度に漁場の環境保全、さらに森や農地の環境に目を向け、先進の取り組みがなされてきた。

温暖化の影響もあり、漁業を取り巻く環境は刻々と変化しており、対応を迫られる。

網走は道内の5%程を水揚げし、全国でも12番目の漁獲量を誇る。だが、豊かな漁業を続けるためには水産資源の管理（資源を減らさない捕獲↓毛ガニ・シジミ・ワカサギ・シラウオ）、養殖（資源を増やす↓ホタテ・サケ・マス）、そして漁場環境の保全が欠かせない。能取湖、網走湖など4つの湖と網走川、オホーツク海の漁場環境は陸水の影響を受けやすいため、森林の環境保全にも注意を払う。